

(仮称) 門真市立生涯学習複合施設基本設計業務委託
基本設計概要書

令和 4 年 9 月
門 真 市

【目次】		
事業概要	01
配置・平面計画	02~04
環境・防災・断面計画	05

基本設計概要書

市民の文化活動を盛り上げる新しいランドマーク「スパイラルガーデン」



敷地概要	建築概要
・計画地 : 門真市幸福町11番地	・主要用途 : 図書館/店舗/飲食店 (建基法上の想定用途/文化会館機能を含む)
・敷地面積 : 3,281㎡	・構造種別 : 鉄骨造
・用途地域 : 近隣商業地域	・建築面積 : 2,321㎡
・都市計画区域 : 市街化区域	・延床面積 : 7,299㎡(屋内部分6,373㎡)
・防火地域 : 準防火地域	・階数 : 地上5階

周辺一帯の価値向上に繋がる公共性の高い施設計画

駅前区画整理を伴う再開発エリアにおいて、新しいシンボルとなる複合施設をつくります。屋上へ人を引き込む「スパイラルガーデン」や、建物中央を貫く吹抜け空間「ギャラリーウォーク」、駅から連続するシェルターが接続する軒下空間の整備により、歩行者中心の活発なエリアネットワークを生み出します。街に市民活動と緑があふれ出し、複合施設を中心にエリア全体が魅力的な空間となり、地域の価値を高めていくための中心的な役割を担う施設を目指します。

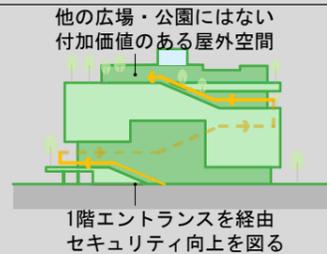


計画地のポテンシャルを活かす計画上の工夫

歩行者及び自動車、自転車の動線を極力明確に分離し、誰もが安心してアクセスできる施設計画とします。また、駅前立地における街の顔となるとともに、現在進行中のまちづくり事業の区域やその周辺の景観づくりを先導する施設として計画する必要があります。基本設計においては、これらの役割を担う施設とするための具体的な方策を設定しました。今後の詳細な設計においても本方策をもとに、より一層の進展を図るものとします。

建物内外にぎわいを生み出す「スパイラルガーデン」

1階から屋上まで建物周囲をらせん状に取り囲むテラス空間「スパイラルガーデン」を設けます。スパイラルガーデンには、各所で面する屋内での活動があふれだし、街に対して賑わいを提供します。また、下階から連続した先に繋がる屋上には、市民が利用できる屋上デッキを設け、読書の合間の休憩や、子育て世代の遊び場として機能します。高い位置から周辺の街並みを眺めたり、子どもの車道への飛び出しの心配が無い等、周囲の広場や公園とは異なる性質の公共空間として位置づけ、エリアの価値を補強します。



周囲の賑わいを引き込み広げる「ギャラリーウォーク」

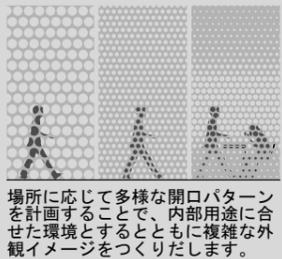
建物内部には、1階から屋上までを縦に貫いた大きな吹抜け空間を設けます。トップライトを設け自然光が落ちる明るい吹抜けとするとともに、壁面書架を吹抜けに面して配し全階を繋ぐ階段を設けることで、各階で異なるアクティビティを縦断する賑やかな市民の共用空間をつくりだします。ギャラリーウォークの1階部分は南及び北西に設けた建物出入口と繋がり、通り抜け動線としても使うことができるような計画とし、周辺エリアの活動を建物内部にも取り込み、より一層盛り上げる仕組みとして機能します。



上下階の活動を繋げるギャラリーウォークのイメージ

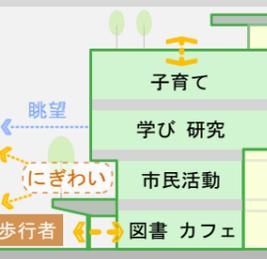
外部との関係を整える「アルミパンチングメタル外装」

建物外装には、様々な開口パターンを持ったアルミのパンチングメタルを採用し、視線や日射のコントロールを行い、快適な図書空間をつくります。また、設備ガラー等機能上現れる異要素を外装内側に設けることで、建物全体の意匠の統一感を持った外観を実現し、敷地周辺四方共に裏側をつくらぬ計画とします。



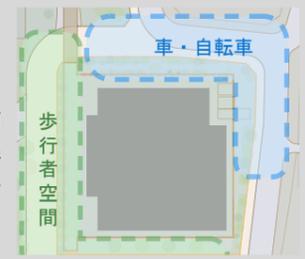
周辺環境と呼応したプログラム配置

西側の特殊道路に向けたカフェエリアの整備等、周辺環境を意識したプログラム配置を行います。また、指定管理による運営を想定した集客性や運営のしやすさにも配慮した適切なゾーニングを行います。各階で明快に区分した階別ゾーニングにより、来館者の多様な利用シーンに適切に対応できる計画とします。



歩行者中心のまちづくりに寄与する歩車分離の計画

建物四周において1階の壁面位置を上階よりもセットバック(後退)させることで、地上レベルに軒下の歩行空間を設けます。また、敷地への車両の進入スペース、駐輪場は北東側にまとめて配置し、歩行者動線と車両・自転車利用者の動線の分離を行います。歩行者中心のウォカブルな街づくりに寄与する計画とします。



夜景にも配慮した照明計画のイメージ

基本設計概要書

配置計画

■ 建物四周をめぐる軒下空間

1階の壁面を上階よりも後退させることで、建物全周に軒下空間をつくります。駐車場及び駐輪場の庇となる他、建物西側ではテラス空間の日よけ及び敷地南北をつなぐシェルターとして機能します。建物周辺に付加機能を持たせることで人の流れを生み、裏となる空間を極力作らない計画とします。

■ 歩車分離の安全な配置ゾーニング

駐車スペースは敷地北東角にまとめてコンパクトに配置し、背面に歩行者用通路を通すことで、敷地内において歩行者が自動車動線と干渉することなく往来できる計画とします。また、駐輪エリアも北東方向にまとめ、南及び西側については歩行者専用エリアとし、エリア帯のウォークアブルなまちづくりに寄与する計画とします。

■ 地域に馴染む地上植栽

西側は隣接する歩行者専用道路に対しての街路樹として、東側は既存の住宅街への緩衝帯として等、地上植栽は敷地周囲の状況に合わせて各方角それぞれに適切な計画を行います。また、樹種についても周辺の地域植生に基づいて地域に自然と馴染む風景をつくります。なお、外構計画の詳細については今後周辺の計画の進捗に合わせて適宜調整を要するものと考えます。

1階平面計画 -日々の生活の充実とまちの交流拠点-

■ 全ての来館者を受け入れるオープンなエントランス空間

来館者が建物に入った際に、建物の構成が一目でわかるように、共用部はエントランスから内部が一望できるオープンな空間とします。多目的室（キッチン）では料理イベント等を行う事ができ、全開放の折戸サッシによってギャラリーウォークにあふれだした一帯の活用も想定されます。図書館スペースやカフェ等、様々な機能が明確な境界なく同居することで、訪れた来館者を迎え入れるにふさわしい施設内でもっとも活気あふれるエリアとなります。



基本設計概要書

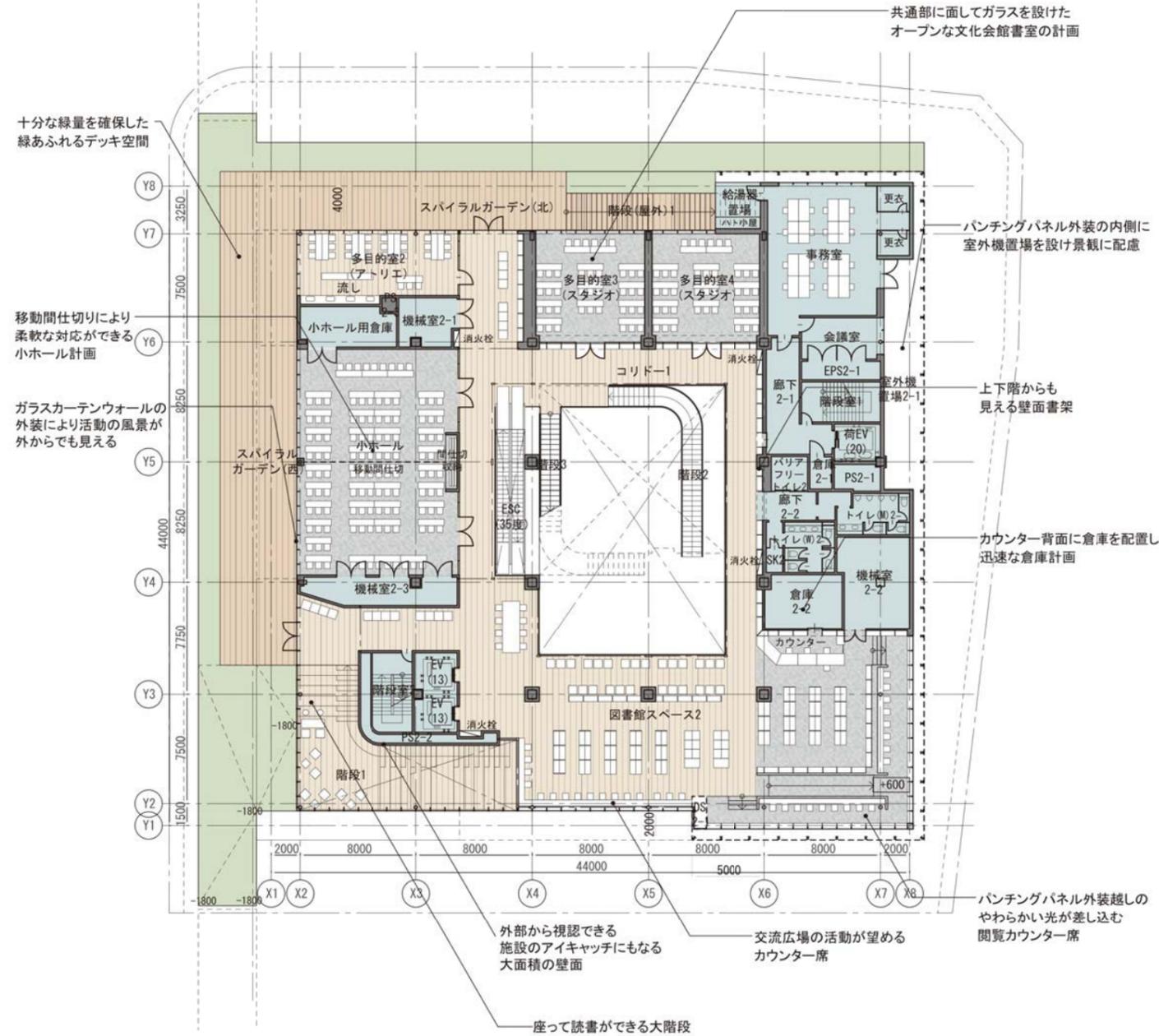
2階平面計画 -本の森と市民活動の場-

■ スパイラルガーデンの始点となる大階段

スパイラルガーデンの始点として位置づけられる豊かな日照の中読書や休憩が可能な大階段を建物南西に設けます。屋外からの視認性も良く、演出照明や館名サインの設置等にも適したエリアとなります。

■ 文化会館機能が集約した市民活動の場

吹抜けのまわりを囲うように小ホール等の文化会館機能を配置することで、ギャラリーウォーク周辺に市民の多様な活動があふれだし、人々の興味をひきつけ、更なる活動につながっていくことを目指します。また、文化会館機能はスパイラルガーデンにも面することで、賑わいのある屋外空間の創出にも寄与します。



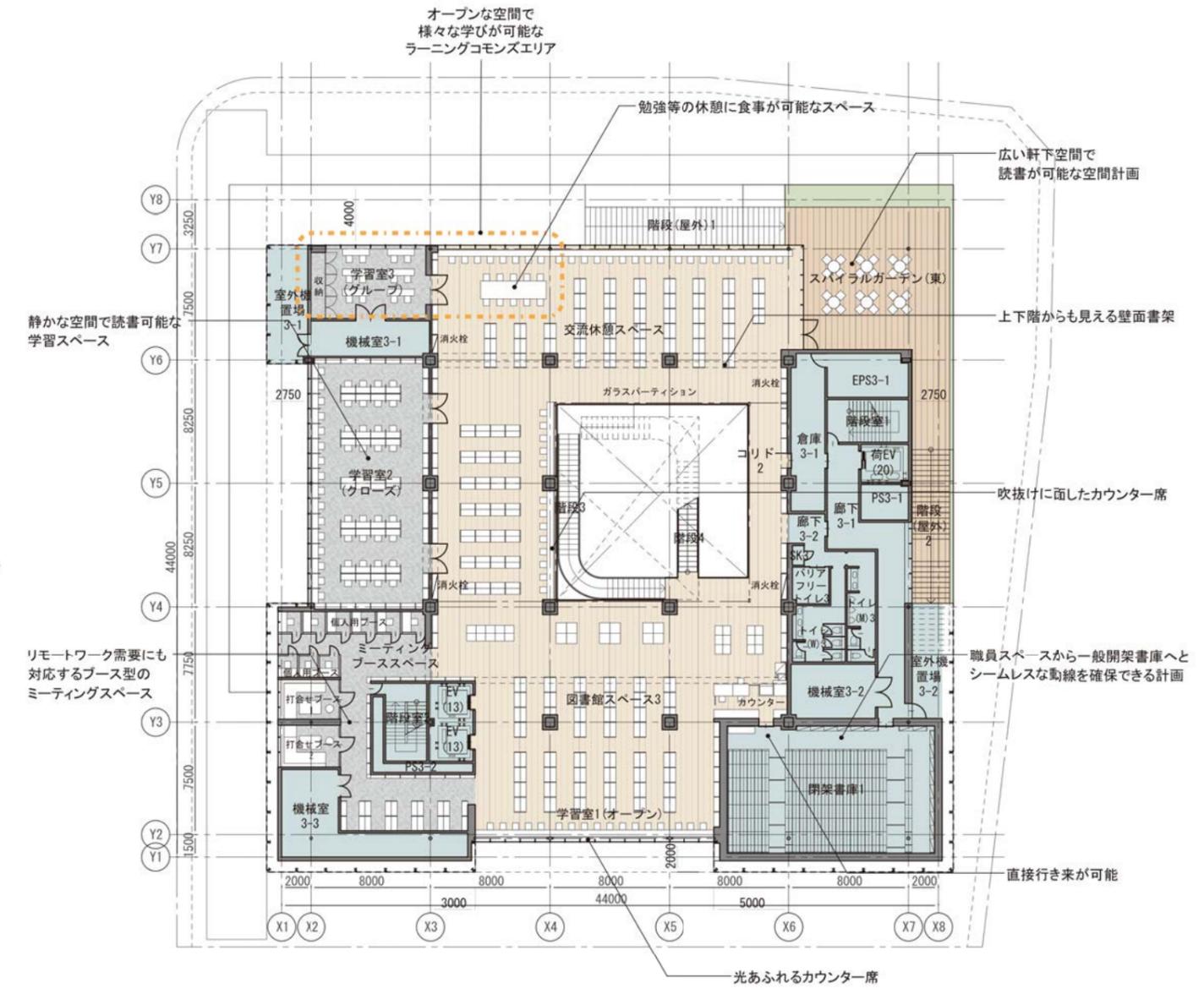
3階平面計画 -自分を高める場-

■ 静かな環境で集中できる読書/研究専門エリア

3階は集中した環境で読書や研究を行う事ができる空間として設けます。他階で流すBGMをなくしたり、特に音に配慮する室では床をカーペット敷きとしたりすることで、フロア全体で環境を設えます。

■ 新しい学びの手法を積極的に取り入れたプランニング

グループ利用が可能な学習室と交流休憩スペースを活用し、人々が自由な意見交換を行うことができるラーニング commons としての機能を備える他、昨今の需要を踏まえたりリモートワークにも対応可能なブース型ミーティングスペース等、図書館の新しい使い方を積極的に取り入れます。



基本設計概要書

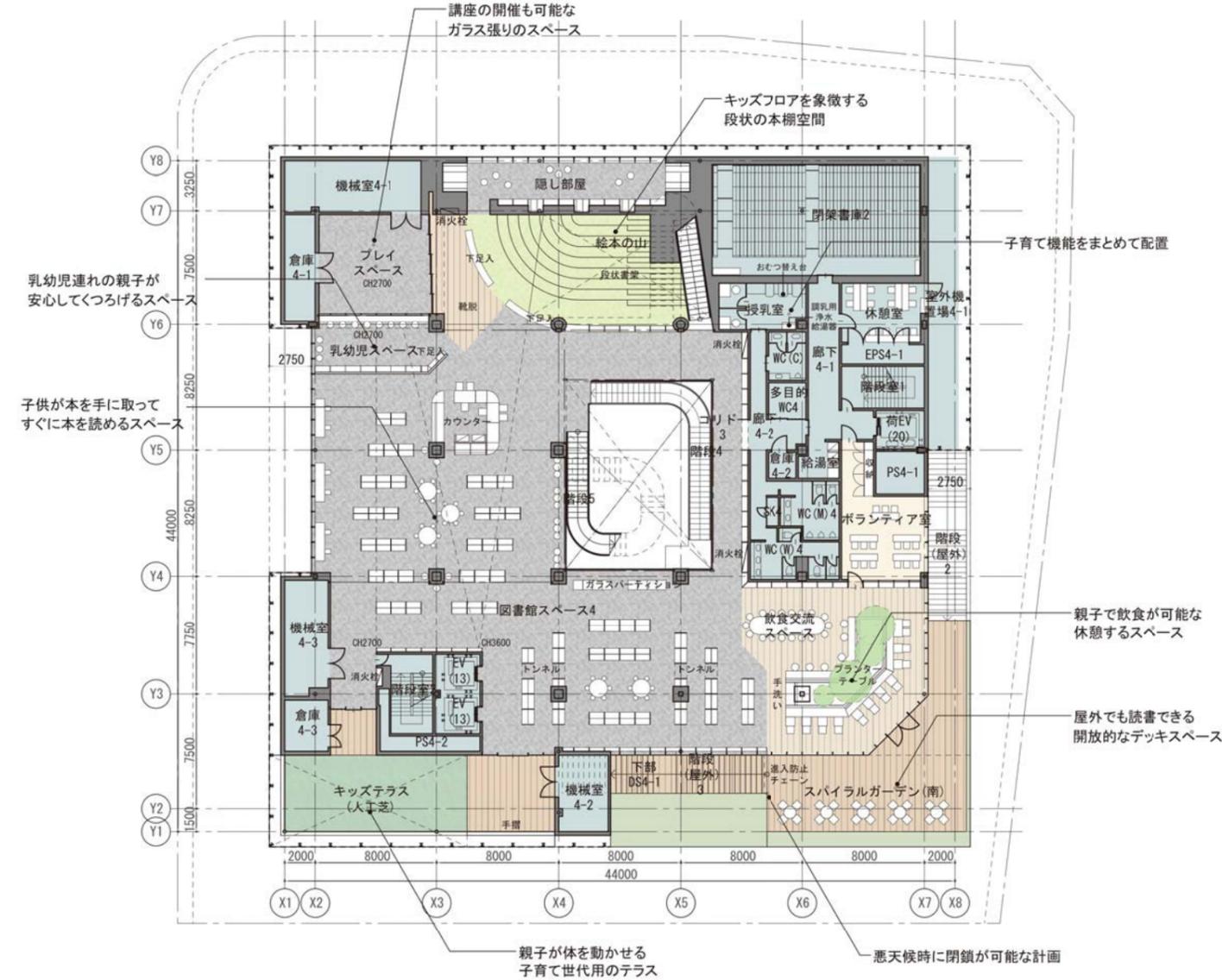
4階平面計画 -こどもの成長を育む場-

■ 子育て世代が気兼ねなく利用できる専用エリア

4階は子育て世代に特化したエリアとし、周囲に気兼ねなく利用できるフロアとします。プレイスペースや乳幼児スペース、屋外のキッズテラス等、幅広い年齢層に対応した遊びの場とともに、授乳室や子ども用トイレ等の専用設備を設けます。

■ こどもエリアを象徴する「絵本の山」

フロア北中央には、段状の本棚によって構成された「絵本の山」を設け、こどもフロアを象徴する空間をつくります。絵本の山の頂上は、敷地北側に面する寺院の大楠等を始めとした門真の街並みを望められる踊り場空間として設えます。



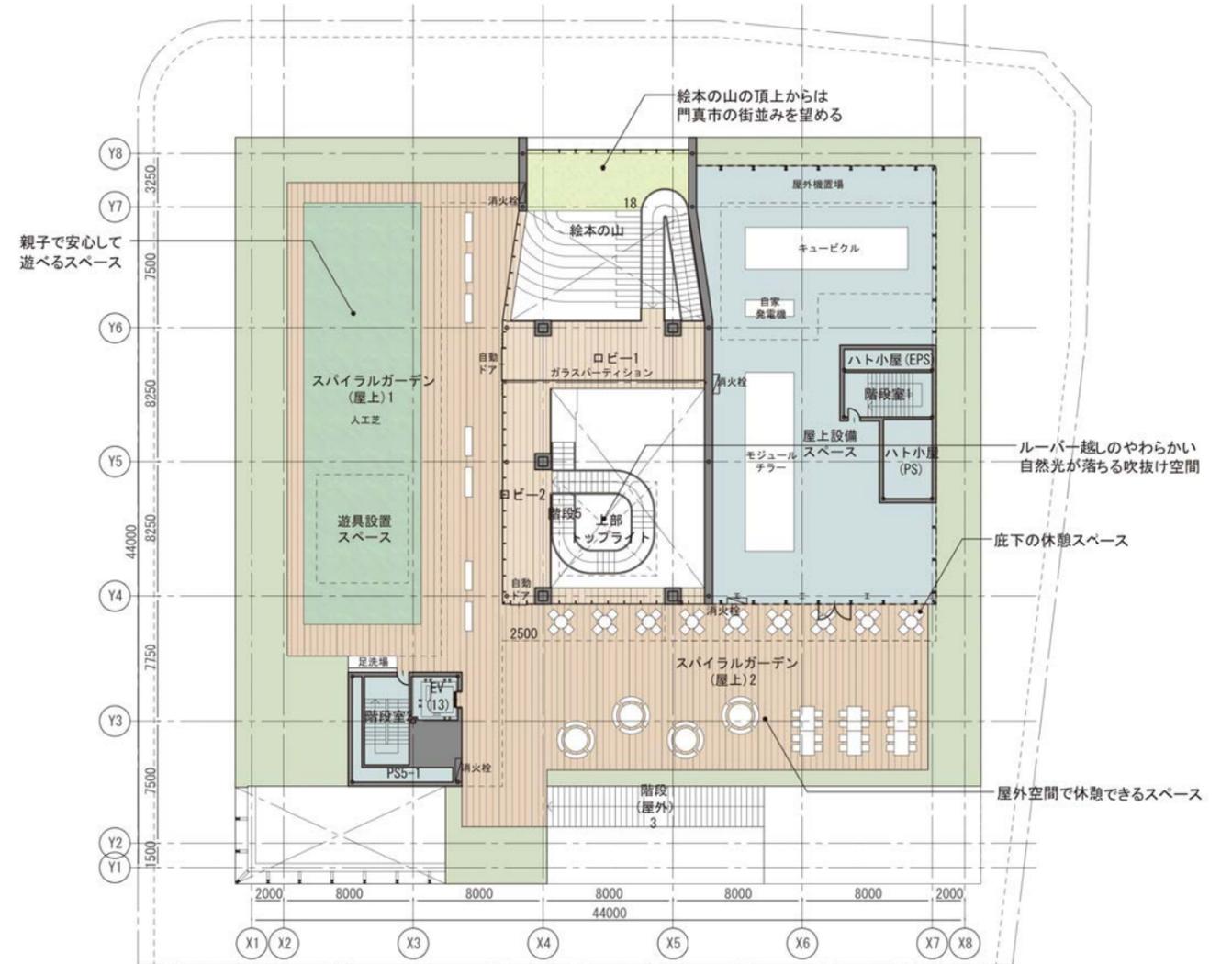
5階平面計画 -まちと施設をつなぐオープンな屋外空間-

■ 様々な世代が安心して利用できるオープンスペース

屋上のテラスは大きく2ゾーンに区分され、西側を子育て世代を中心とした利用を想定し、南側を全年齢対応とし、各世代が安心して利用できる計画とします。子育て世代エリアには人工芝エリアを設けると共に、大型遊具の設置を検討します。

■ コンパクトにまとめた設備スペース

重要設備は浸水の恐れがなくメンテナンスが容易な屋上にコンパクトにまとめます。将来の更新時においても、クレーンによる吊り込みによる機器交換を想定し、極力維持負担が少ない計画とします。



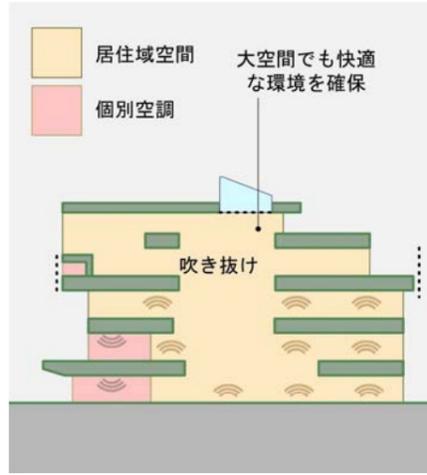
基本設計概要書

環境計画

低炭素社会に向けた持続可能な施設として、ライフサイクルCO2の削減に向けた省エネルギー・省資源に積極的に取り組み、環境負荷低減を図ります。また、設備や建材のメンテナンス性にも配慮し、維持管理負担の低減にも取り組んだ、広い意味での環境への配慮を行います。

パッシブデザインの活用による必要十分でシンプルな設備計画

テラスを介した自然採光や、吹抜空間を活用した自然換気等、積極的に自然エネルギーを利用した環境にやさしい設備計画を行います。必要十分な居住環境を確保したうえで、有効に省エネ化を図ります。また、空調についても空間の大きさや運用方式に応じて適材適所の方式を選定し、高効率を実現します。



環境をコントロールする外装計画

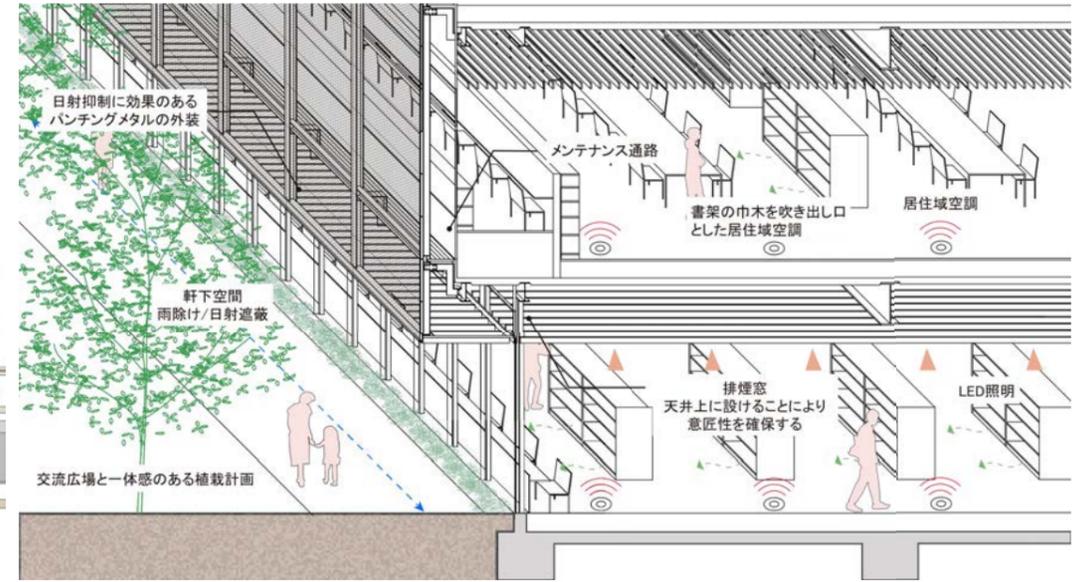
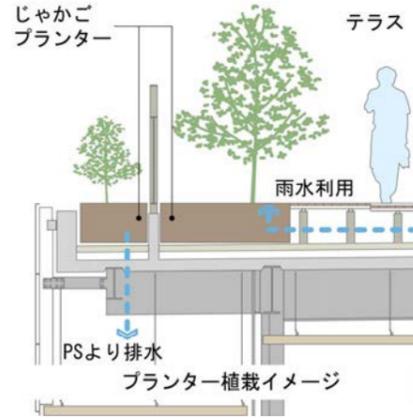
建物外周部に設けたテラスやパンチングメタルの外装により、周辺環境に応じて日射と視線をコントロールします。温熱環境への配慮や書籍等の日焼けへの対策を考慮した、実用性にも優れた施設の計画とします。

将来を見据えた総合的な建築計画

パンチングメタル外装と壁面との間にはメンテナンス用の空間を設け、足場を設けずに止水等の補修が可能な計画とします。柱と梁のシンプルな架構計画により、将来のプラン変更にも対応しやすい計画とします。

緑豊かな施設を維持する技術的配慮

植栽への散水に雨水利用を行い、環境負荷低減とランニングコスト削減を両立します。また、屋上の樹木植栽についてはプランター埋込の納まりとし、万一の枯れ発生の際にも植え替えが比較的容易な計画とします。

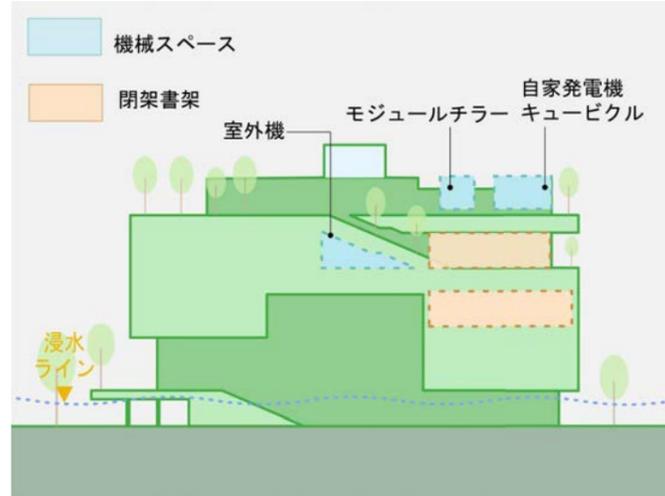


防災計画

防災に対しては公共施設として、被災時の損害を最低限度に抑える工夫を行います。

万一の災害時にも被害を抑える機械配置

敷地一帯は市が公開する洪水ハザードマップ(大阪府洪水リスク表示図)において0.5m~3.0mの浸水が想定される範囲に指定されています。非常用発電機やキュービクル、閉架書庫用の空調機等、施設における特に重要な設備については浸水高さを超える2階以上に配置し、万一の浸水災害に対しても被害の最小化を図ります。尚、施設としては帰宅困難者の一時的な受け入れ程度を想定し、共用部の開放等を検討します。



断面計画

建物外周をとりまく「スパイラルガーデン」と、建物内部を縦に貫く「ギャラリーウォーク」が、階ごとに明快に設定された用途区分を縦断して空間を繋ぎ、程よい距離感を保ちながら、相互に関わり合う緩やかな関係をつくりだします。特定の目的がある来館者にも、ふらっと訪れた無目的な来館者にも、全ての市民に居場所を提供する親しみやすい施設となることを目指します。

